

令和2年度厚生労働科学研究費補助金  
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業）

令和2年度 分担研究報告書

ドナーミルク利用家族に対するアンケート調査

研究分担者 谷有貴 奈良県立医科大学附属病院総合周産期母子医療センター

新生児集中治療部門

研究要旨

極低出生体重児やハイリスク新生児にとって経腸栄養の第一選択は児の母の母乳（以下「自母乳」）である。新生児集中治療室（NICU）では、自母乳が得られない場合には、“もらい乳”（感染対策等をされていない、一般褥婦からの母乳）が利用されている状況が散見される。しかし、“もらい乳”を介した多剤耐性菌によるアウトブレイクの報告もあり、“もらい乳”の安全性は担保されていない。自母乳が不足している場合、または使用できない場合の選択肢として、適切に安全管理されたドナーミルクがある。2017年に一般社団法人日本母乳バンク協会が設立され、現在、昭和大学江東豊洲病院と日本橋母乳バンクの二か所で母乳バンクが運営されている。今後の全国的な展開を見据え、今回、昭和大学江東豊洲病院と奈良県立医科大学附属病院 NICU においてドナーミルクを使用した児の母親にアンケート調査を行い、今後の母乳バンクの在り方について検討した。また、母乳バンクのポスターやドナーとレシピエント家族向けの冊子を作成することで、国民の理解が深まることを期待したい。

A. 研究目的

早産児、特に出生体重が 1500g 未満の極低出生体重児や消化管疾患・心疾患を合併しているハイリスク新生児は、未熟性、外科手術による侵襲、チアノーゼ等の病態に陥りやすい。それらの児の管理にとって、経腸栄養の第一選択は、腸管発育ホルモンや感染防御因子などに富む児の母の母乳（以下「自母乳」）である<sup>1)</sup>。新生児集中治療室（NICU）では、自母乳が得られない場合に、“もらい乳”（感染等が確認されていない、同一施設内の褥婦から提供された他人の母乳）が利用される状況が散見されるが、“もらい乳”による多剤耐性菌のアウトブレイクの報告もある<sup>1)</sup>。母乳が得られない早産児に人工乳を使用し、腸管粘膜上皮の感染防御機構の未熟性などから壊死性腸炎の発症が増加したことも報告されてい

る<sup>2)</sup>。このように“もらい乳”は安全性が担保されておらず、一方で早産児の未熟な腸管に人工乳の及ぼすリスクも高い。

海外では自母乳が不足する場合や使用できない場合の選択肢として、適切に管理されたドナーミルクが広く使用されている。こうした中、我が国においても NICU における母乳栄養を基盤とした新生児栄養管理の向上、しいては児の予後改善を目指し、2017年に一般社団法人日本母乳バンク協会が設立された。現在、昭和大学江東豊洲病院と日本橋母乳バンクの二か所で母乳バンクが運営されている。ドナーミルクの有用性から、現在、国内において複数の地域において新たな母乳バンクの開設が準備されている。

今回、母乳バンクのドナーミルクを利用した児の母親へアンケート調査を行い、ドナー

ミルク使用に対する母親の心情について調査するとともに、今後の望ましい母乳バンクの在り方、NICUでのドナーミルクを含めた母乳育児の進め方について検討した。

## B. 研究方法

昭和大学江東豊洲病院と奈良医大附属病院NICUに入院し、ドナーミルクを利用した児の母親へ無記名のアンケート調査を郵送し、回答を得た。(資料1)なお、このアンケート調査は、昭和大学江東豊洲病院と奈良県立医科大学附属の倫理審査委員会の承認を得て行った。

## C. 研究結果

アンケート調査の対象となったのは、2施設で合計77名、51名から回答を得た。(回答率66%)

分娩前の母乳バンクの認知度は、出産前に母乳バンクを知っていた人は8%で、92%の人は知らなかった(図1)。事前に母乳バンクを知りたかったと回答した人は96%に上り(図2)、知りたい時期については、妊娠前(27%)、妊娠初期(16%)、妊娠後期(48%)、出産後(7%)、その他(2%)と妊娠週数が進むとともに高くなった(図3)。

母乳バンクのどのような内容が知りたいかという問いについては、制度(29%)・安全性(24%)・使用する理由(21%)・費用(15%)・使用可能施設(11%)の順に回答が多かった(図4)。情報提供の機会としては、妊婦健診(27%)、母子手帳(22%)、両親学級(15%)など、妊娠中に日常生活で触れる機会の多いものからの情報提供の希望が高かった、出産・育児の本やテレビ・雑誌などのマスメディアからの希望は高くなかった(図5)。

ドナーミルクの使用に関しては、自分の児へのドナーミルクの利用については84%の人が利用したいと答える一方、14%の人はどちらかと言えば使用したくないと回答した(図6)。使用したくない理由として、他人の母乳を与えることへの抵抗感や自分自身の母乳でのみ育てたいという強い願望があった。

ドナーミルクを使用することで、母親自身の母乳育児への意識に変化があったかどうかという問いに関して、変化があったのは55%、なかったのは45%であった(図7)。気持ちの変化として、母乳育児への理解が深まったという回答が多かったが、なかには、自分が頑張って努力しておけば使用しないで済んだ(後悔の気持ち)や自分の母乳が出るようになれば(自責の思い)などドナーミルクを使用せざるを得なかった自分に対して後悔の念を持ったとの回答や、自分の母乳のみで栄養できないのであれば人工乳でもよいのではないかと思ったという回答もあった(資料2)。

自身の児にドナーミルクは必要だったかとの問いに94%が必要だったと回答し(図8)、母乳バンクは必要かとの問いには、80%が必要と回答した(図9)

母乳バンクに対しても早く知りたかった、もっと広まってほしいなど、様々な意見をいただけた(資料3)。

## D 考察

近年、超早産児であっても生後早期から経腸栄養を開始することに伴い、短期予後の改善が報告されるようになり、生後24時間以内から経腸栄養を開始することが標準化される傾向にある<sup>(4)(5)</sup>。自母乳が得られない状況では、生後24時間以内に経腸栄養を開始するた

めには、ドナーミルクまたは“もらい乳”、低出生体重児用調整乳の何れかを投与されることになる。低出生体重児用調製粉乳は新生児壊死性腸炎の危険を高めてしまう<sup>(6)</sup>。一方、“もらい乳”はウイルス・細菌感染のリスクを否定できない欠点がある。そのため、母乳栄養の重要性とドナーミルクの必要性と使用したことによって及ぼしうる危険性を十分に説明した上で、自母乳不足例にはドナーミルクを使用すべきと考える。

アンケート結果からも、生後早期からドナーミルクを利用するためには母乳バンクに関する説明は出産前（妊娠後期）を希望する妊婦が多かったが、ハイリスク児を出産するかもしれない母親の思いを考え、これまでは出産する前から母親の母乳ではなく母乳バンクのドナーミルクを使うという説明を聞くのも抵抗があると著者は考えていた。しかし、今回のアンケート調査で、出産前に母乳バンクやドナーミルクについて知っておきたかったと回答した母親が多く、母乳バンクやドナーミルクを知る時期として、自分が実際に使用するかはわからない時期に、知ることが、母親の心的負担を軽減することになるのではないかと考えられる。特に、早産児を出生する妊婦は、自母乳の不足を出産前から危惧している事からも、ドナーミルクの情報提供は不安定な妊婦に安心感を与える可能性を示唆したアンケート結果であった。

また、ドナーミルクについての説明を十分に行うことで、母乳育児への理解が深まったと答えた母親も多く、当初予想していなかったことであった。一方、自母乳にこだわる母親では、自母乳で育てられないのであれば、ドナーミルクを使用せず人工乳でもよい（混合栄養でもよい）との考えに転じた例もあつ

た。母乳育児の理解を深めるには、ドナーミルクの説明だけでなく、より詳細で丁寧な母乳育児の説明が必要であると思われた。

## E 結論

今回、本邦で初めてとなるドナーミルクを使用した児の母親へのアンケート調査を行った。今回の調査から、我が子のため自母乳の使用を含めた最善の腸管栄養方法をとりたいという思いを持った母親が多かった。しかし、医学的には有益と理解しても、自母乳のみで育てることができない無念な思いが母親の中に混在していた様子が示された。

全ての超早産児に早期授乳を実現するにはドナーミルクは必要であることは明白だが、母親の思いも理解し、一時的にドナーミルクを使用することは治療の一環であり、母親の母乳育児への気持ちを損なうものではないことなど、母親に心情に沿ってより丁寧な説明が必要である。ドナーミルクの使用はわが国ではまだ根付いたばかりであり、国際的には一般的な治療であることを国内で周知していくことが必要である。そのためには母乳バンクの全国的な展開を含めた、ドナーミルク普及システムを早期に確立していく必要があると考える。

## 【文献】

1. Nakamura K, Kaneko M, Abe Y, et al. Outbreak of extended-spectrum  $\beta$ -lactamase-producing *Escherichia coli* transmitted through breast milk sharing in a neonatal intensive care unit. *J Hosp Infect* 2016;92:42-6
2. 羽田謙太郎、佐藤真紀、郷勇人、他 当院における極低出生体重児の壊死性腸炎増加

に対する検討 第52回日本周産期新生児医学会（富山）2016. 7

4. 谷 有貴, 西久保敏也, 水野 克己, 他. 当院におけるドナーミルクの使用状況について 第64回日本新生児成育医学会総会、2019年11月27日～29日、鹿児島

5. 市橋 寛. 新生児臨床研究ネットワークによる多施設ランダム化比較試験 超低出生体重児における超早期授乳 周産期医学 43: 591-595, 2013.

6. Quigley M, Embleton ND, McGuire W. Cochrane Database Syst Rev 2019 19:7 Formula versus donor breast milk for feeding preterm or low birth weight infants.

研究発表

1. 谷有貴、ドナーミルク使用経験1、第3回母乳バンクカンファレンス、2020年9月26日、東京

図 1

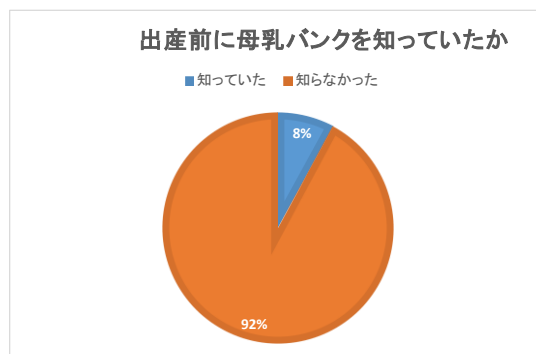


図 2

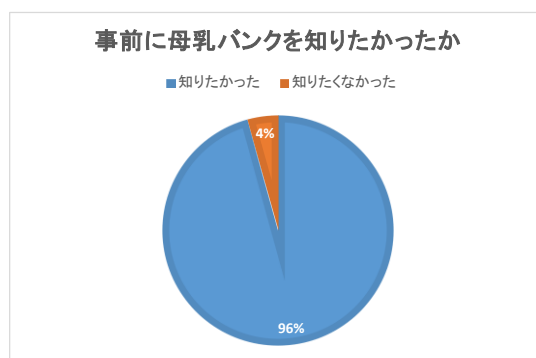


図 3

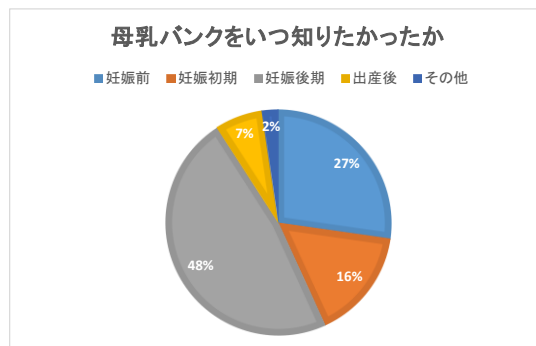


図 4

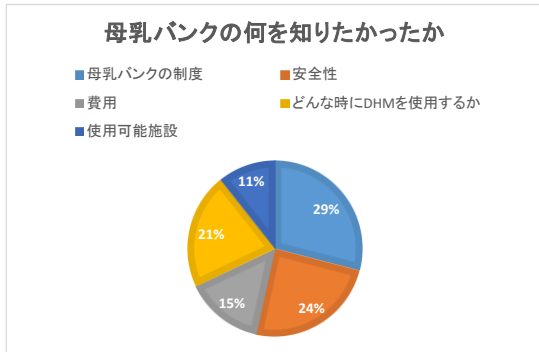


図 5

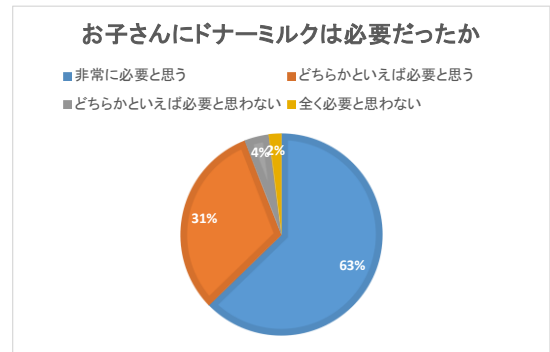


図 9

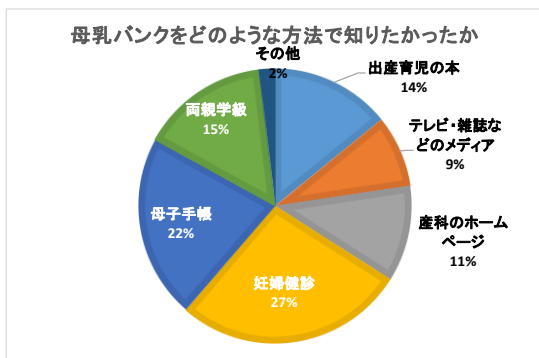


図 6

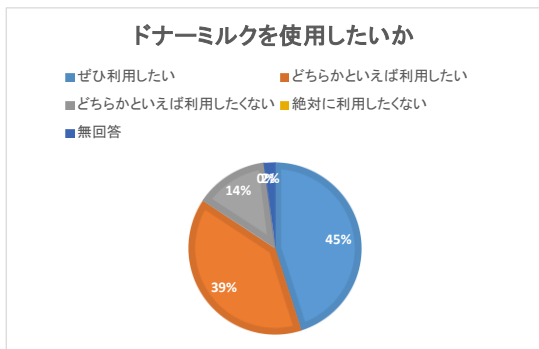
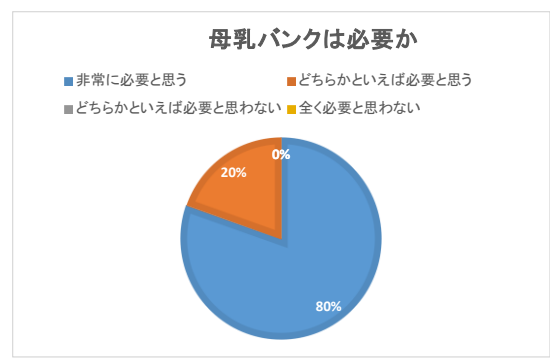


図 7

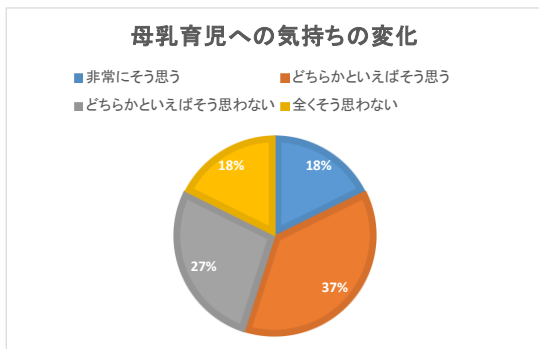


図 8

## 資料 1 ドナーミルクを使用したお母さまへのアンケート調査

NICUに入院した赤ちゃんにとって、出生後早期からの栄養はとても大切です。特に腸が未熟な時期には母乳が適しており、海外では母乳が出るまでの間、ドナーミルクを使う施設もたくさんあります。今回、奈良県立医科大学附属病院のNICU入院中にドナーミルクを使用する同意を得た赤ちゃんのご両親にアンケート調査をさせていただき、今後の母乳バンクの運営方法に役立てたいと考えております。アンケートは匿名で行われますので率直なご記入をお願いいたします。

### ① お子様についてお答えください

出生時の在胎週数 \_\_\_\_\_ 週 \_\_\_\_\_ 日

出生体重  ~500g、 500~999g、 1000~1499g、 それ以上

回答時の年齢 \_\_\_\_\_ 才 \_\_\_\_\_ か月

当時出産したお子様の人数 (  一人 双子 )

### ① 当時のお子さまの出生時、あなたの年齢で当てはまるものをお答えください

10代後半、20代(前半・後半)、30代(前半・後半)、40代(前半・後半)、50代(前半・後半)

### ② 差し支えなければあなたの最終学歴を教えてください

中学校、高等学校、専門学校・短期大学、4年制大学、大学院以上、無回答

### ③ 当時、あなたの同居していた家族構成に関してお答えください

( \_\_\_\_\_ )

### ④ あなたの育児の協力者をお答えください(複数回答可)

協力者は(いる、いない)

協力者は(配偶者、あなた or 配偶者の父母、あなた or 配偶者の兄弟姉妹、

生まれたお子さんの同胞、他: \_\_\_\_\_ )

### ⑤ 当時の妊娠で不妊治療はされていましたか？1つ○をつけてください

( ) していた (人工授精・体外受精・してはいたが自然妊娠だった)

( ) していなかった

### ⑥ 出産前に、母乳育児についてどう思っていましたか？1つ○をつけてください

( ) 絶対に母乳のみで育てたい

( ) できれば母乳で育てたい

( ) どちらでも良い

( ) できれば人工乳で育てたい

( ) 人工乳のみで育てたい

⑦ 早く生まれた赤ちゃんにおける母乳の利点を記載します。知っていたものに○を付けてください(複数回答可)

- ( ) 感染症を減らす
- ( ) 肺の病気(慢性肺疾患)を減らす
- ( ) 眼の病気(未熟児網膜症)を減らす
- ( ) 腸が壊死する病気(壊死性腸炎)を減らす
- ( ) 消化しやすいので早く点滴がやめられる
- ( ) そのほか:( )

⑧ 出産前に母乳バンクについて知っていましたか?どこで知りましたか?

- ( ) 知っていた:(どこで?: )
- ( ) 知らなかった

⑨ ⑧で母乳バンクを知らなかったと答えた方に伺います。

事前に母乳バンクの存在を知りたかったですか?

- ( ) 知りたかった
- ( ) 知りたくなかった

A:知りたかったとお答えになった方

いつ知りたかったですか?1つ○をつけてください

(妊娠前、妊娠初期、妊娠後期、出産後、他: )

何を知りたかったですか?(複数回答可)

(母乳バンクの制度、安全性、費用、どんなときにドナーミルクを使うのか  
使用可能な施設がどこか、他: )

どのような方法で知りたかったですか?(複数回答可)

(出産育児の本、テレビ、雑誌などのメディア、産科のホームページ、妊婦健診の時  
母子手帳、両親学級、他: )

B:知りたくなかったとお答えになった方

なぜ知りたくなかったのですか?( )

⑩ ドナーミルクの説明を受けた際、医師の説明はいかがでしたか?

- ( ) よくわかった
- ( ) よくわからなかった

⑪ ⑩でよくわからなかったと答えた方へ。どうしたらわかりやすかったと思いますか?(複数回答可)

- ( ) わかりやすい説明書やパンフレットがあればよかった
- ( ) 母乳バンクの専門家から説明があればよかった
- ( ) その他( )

⑫ 医療者からドナーミルクのお話を聞いて、あなたの母乳が不足する場合に使用することについて、どう思いましたか？1つ○をつけてください

- ( ) ぜひ利用したいと思った
- ( ) どちらかといえば利用したいと思った
- ( ) どちらかといえば利用したくないと思った
- ( ) 絶対に利用したくないと思った

⑬ ⑫で利用したいとお答えになった方へ。理由を教えてください

(理由: \_\_\_\_\_ )

⑭ ⑫で利用したくないとお答えになった方へ。理由を教えてください

(理由: \_\_\_\_\_ )

⑮ もし、あなたの母乳分泌が十分でお子様が飲んだ後も余る様なら母乳バンクに提供したいと思いましたが？

- ( ) 思う
- ( ) 思わない

(その理由: \_\_\_\_\_ )

⑯ ドナーミルクを使用することについてどう感じましたか？それぞれ1つ○をつけてください

A: 漠然とした不安感があった

- ( ) 非常にそう思う
- ( ) どちらかといえばそう思う
- ( ) どちらかといえばそう思わない
- ( ) 全くそう思わない

B: できるかぎり良いことを行ってあげられていると感じた

- ( ) 非常にそう思う
- ( ) どちらかといえばそう思う
- ( ) どちらかといえばそう思わない
- ( ) 全くそう思わない

C: 自分の母乳だけで育てられないことが悲しかった

- ( ) 非常にそう思う
- ( ) どちらかといえばそう思う
- ( ) どちらかといえばそう思わない
- ( ) 全くそう思わない



D:出産直後、自分の体への負担が減ったと感じた

- 非常にそう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- 全くそう思わない

E:人工乳(育児用ミルク)よりは良いと思った

- 非常にそう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- 全くそう思わない

F:ドナーミルク使用で母乳育児に対する気持ちの変化はありましたか？

- 非常にそう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- 全くそう思わない

なにが変わりましたか？

( )

⑰ 退院後のことについてお聞きします。それぞれ1つ○をつけてください

A:退院後はできるだけ母乳育児を続けていきたいと思っていた

- 非常にそう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- 全くそう思わない

B:退院後に母乳のみで育てられるか心配があった

- 非常にそう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- 全くそう思わない

⑱ ドナーミルクに関して以下の中から、当てはまると思う項目に○を付けてください(複数回答可)

母乳の処理方法や保存方法への懸念、提供者がわからないことへの不安

自身の母乳育児へのモチベーション低下、自身の母乳分泌低下への心配

児の栄養が偏らないか不安、将来自分の母乳を飲んでくれるか不安、特にない

その他( )

⑱ あなたのお子さんにドナーミルクは必要だったと思いますか？1つ○をつけてください

- ( ) 非常に必要と思う
- ( ) どちらかといえば必要と思う
- ( ) どちらかといえば必要だったと思わない
- ( ) 全く必要と思わない

(その理由: \_\_\_\_\_ )

⑳ 今後、日本に母乳バンクは必要だと思いますか？1つ○をつけてください

- ( ) 非常に必要だと思う
- ( ) どちらかといえば必要だと思う
- ( ) どちらかといえば必要だと思わない
- ( ) 全く必要だと思わない

(その理由: \_\_\_\_\_ )

㉑ ㉑で母乳バンクが必要、どちらかといえば必要だと回答した方にお聞きします

母乳バンクの運営はどこが担うべきだと考えますか？1つ○をつけてください

- ( ) 国や市町村が主体で運営
- ( ) 民間団体が主体で運営
- ( ) ボランティアが主体で運営
- ( ) その他: \_\_\_\_\_ )

㉒ 他に母乳バンクやドナーミルクへのご意見があればご記入ください

ご協力ありがとうございました。

資料2 母乳育児への変化について（原文のまま）

自分の母乳が出てからは完全母乳に出来て母乳は赤ちゃんにとって重要だと感じた  
飲めばどちらでもよいと考えですが、早産児には病気予防の意味合いが強いと改めて知った  
使用する上で母乳の利点を多く聞くことができたためより母乳だけで育てていきたいと思うよう  
になった

自分の母乳でなくてよいので多少肩の荷が下りた

半分以上を母乳で育てたいと思うようになった

消化がうまくできなかったが、ドナーミルクを使用して体調が良くなった。母乳は良いものだと  
思えた

母乳が低出生体重児にどれほど良いか知ったので自分の母乳の大切さを実感することがで  
きた

ミルクのリスクよりドナーミルクの利点の方がきになったので

ドナーミルクがあると不安な状況下でもほっとできた

このような制度がもっと広まればよいと思った

母乳で育てたい気持ちと分泌が良くない現状で悩みましたが結果、ドナーミルクに救われまし  
た

自分の母乳を出さないというストレスが無くなった

スタートがドナーミルクだったので母乳だけでというよりは混合でもよいかなと考えられるよう  
になった

自分の母乳が足りなくても安心だと思った

自分が頑張っておけば使用しないで済んだのかな。後悔の気持ち。

母乳が良いと再確認できた

搾乳しないと、病院に持って行かないと、という考えがほんの少しだけなくなった。

自分の母乳が出るようになれば、と思った

免疫を付けてあげられる方法が自分の母乳以外でもあることで少し安心した

ドナーミルクという存在を知れた

ドナーミルクを使い始めて子供が元気になっていくのが目に見えてわかった

母乳を提供してくれるお母さんのことを思うと、自分も大変だけど頑張ろうと思った

母乳が出せるように頑張ろうと思った

出産後すぐに母乳を搾乳できなかったが、もしだめならドナーミルクがあると思うと気持ちが  
少し楽になった。気持ちに余裕が出来た。

資料3 母乳バンクについて意見（原文のまま）

<p>NICUに入院した赤ちゃんしか母乳バンクやドナーミルクの存在を知らないと思います。誰もが安全な出産をするとは最後までわかりません。妊娠をしたらどんな母親も子の存在を知り、使用できる世の中になって欲しいと思います。どこで生まれても使用できるといいですね。NICUもある病院がもっと必要だと思います</p>
<p>29週で出産したが無事に肺炎や腸炎、網膜症の後遺症なく退院することができた。その後も感染症になることなく順調に成長しているのはドナーミルクのおかげと思っている。一刻も早くすべてのNICUでドナーミルクが提供されることを願っています。将来的には持病の投薬等で母乳育児のできないお母さんの希望によってドナーミルクの提供を受けることを選択できるようになって欲しい。緊急搬送によって昭和大学で出産したことは全く予期せぬ出来事だったため精神的なショックも大きかったが母乳バンクのドナーミルクの利点を知り、希望を持つことができた。ドナーミルクを提供していただき心から感謝しています。本当にありがとうございました</p>
<p>産科医療の発達で早産児でも健康に育つようになり母乳バンクが求められる</p>
<p>提供していただいている間は他人の母乳よりも赤ちゃんのお母さんとして母である自分の母乳をい日でも早く飲ませてあげたいという思いがあった。母乳の分泌が良くなり提供する側にもなり低出生体重児には母乳バンクが必要なのだと感じた</p>
<p>直接ドナーにお礼を言うことはできませんが無事に退院し順調に育っています。ドナーのみまさま、医療関係者の皆様に心より御礼申し上げます。今後も多くの子供たちを救っていただけるようによろしく願いいたします</p>
<p>今回母乳バンクのお世話になることができ本当に良かったと思います。使用できる病院が限られている中で運よく機会を得られたことは子供にしても幸運なことだったと思っています。難しいことかと思いますが早くどこでも使用できるようになることを願っています。ありがとうございました。</p>
<p>早産直後にこの制度を認知したのもっと早く広く知られるようになるといいです</p>
<p>ドナーミルクは大変ありがたかったですが、わずかでも与えられる限りは母乳を優先的に与えたい気持ちが強くありました。NICUに預けているといつ自分の母乳が使われたのか目に見えないので使われているか不安がありました。</p>
<p>ドナーミルクはこどもにとってとても良かったと思った。母乳が最初全然でなかった私にとってとても安心できるものだった。母乳が出ない罪悪感のようなものが無くなり心が軽くなった。ドナーミルクを提供してもらえる病院で良かったと思っています</p>
<p>知らないママさんが多すぎると思います。選択肢の幅が広がることは度の状況のママさんにとっても良いと思います。出産直後は気持ち的に不安定なので事前知っておくことはマストだと感じられました。あとは、本当に安全なのかどうか情報を前もっていただいて自分有の考えを整理できる時間と情報をいただきたいと思います。安心安全はやはり厳しい管理基準があって</p>

<p>得られると思いますのでその点をもっとたくさんママたちに知ることができれば母乳バンクという言葉だけでなく、実際の利用も増えるのではないかと感じました</p>
<p>母乳が徐々にでなくなることに不安を感じていた。ストックがなくなりドナーミルク使用を説明があった時は少し抵抗があったが赤ちゃんにとって良いものであればぜひ使用したいと強く感じた。早産児が合併症を起こしやすい時期に母乳が出ないことはとても心配で不安に思うため妊娠中に母乳バンクについて理解があれば抵抗なく使用できるのではないかと思う。</p>
<p>小さく産んでしまったと当時はすごく自分を責めましたがこの子たちにできることの第一歩がドナーミルクでした。決して自分の力ではありませんが、母として一番最初に決断したことでもありました。もっとドナーミルクの存在が身近なものになって欲しいです。</p>
<p>ドナーミルクの提供を受けざる得ない人がいること、母乳が出ない人がいることをもっと社会が認知してほしい。自分はとても感謝しています</p>
<p>子どもが未熟児で生まれてきて自分にできることは母乳をあげることだけなのにそれができなくてすごく責任を感じました。そこで母乳バンクのことをしりとても心が軽くなりました。安心したことを今でも覚えています。とても感謝しております。第2子を妊娠中ですがもし同様のことがあれば利用したいですし、自分の母乳が出るようであれば寄付する側に回りたいです。この制度を広めていただきたいと思います</p>
<p>最近、ネットやテレビでも注目を浴びるようになりうれしく思います。振り返るとよい機会に恵まれたと感謝していますが、当時は心理的に混乱した中でなかなか現実を受け入れられずに不安や自責の念がありました。結婚や出産をまだ考えていない世代にも母乳バンクが広まり少しでも人生の早いうちに知る機会があるとよいと思います</p>
<p>うちの子供は母乳バンクがあったおかげで超低出生体重児でも胃腸が強くなって元気に育ちました。本当にありがたく思っています。全国に母乳バンクが対応できる医療機関が増えていくことを願っています</p>
<p>ドナーミルクがあって本当に助かったし気持ちになりました。生まれるまでに本当に何かあるかわからないと実感したのもっといろいろな人に母乳バンクやドナーミルクの存在を知ってもらい安心して出産できる人が増えるとよいなと思いました</p>
<p>最初に説明を受けた時は、顔が見えない人の母乳なんて嫌だと思いましたが、やっぱり人工ミルクよりは母乳をあげたかったし、いざ自分の母乳が追い付かなくなった時はとてもありがたかったです。NICUに入らなければそらない制度だったので抵抗がありましたが、事前に少しでも情報があればもっと素直に受け入れられたと思います。(育児本など)</p>
<p>存在を知らない人がほとんどだと思うのでまず知ってもらう努力が必要だと思います。あまり知られてないものを使用しないといけないこわさ等があると思うので。</p>
<p>母乳が子供に良いのはもちろんですが、自分と同じような境遇の親子を支えることが出来るかもしれないということで搾乳のモチベーションが保てました。そしてもし自分が出なくても子供には母乳を与えてもらえるというのは自分の中でも心に余裕が生まれたと思います。</p>

<p>私は出産後母乳の分泌が追い付かなかった1日だけドナーミルクを使わせてもらいました。小さな息子が消化しやすいようにと考えての事です。翌日からは自分の母乳を飲ませることが出来たので不安はありませんでした。とても助かりました。ありがとうございました。</p>
<p>私みたいな双子(三つ子)などを出産予定の人は母乳に対して不安を持っているはずですが、2人分出さないといけない、授乳時間が一緒の時や少しだけずれているとき、ちゃんと2人分出るのか、おなか一杯になっているのかなど不安があります。双子じゃなくても母乳はどのくらい出てて足りているのかわからないと思います。なので出産後すぐや子供の姿を見にNICUに初めて行ったときなどに説明した方が知らなかった人は知れて、母乳バンクを必要とするのかどうなのか考える時間がたくさんあると思います。助けられる親子はたくさんいると思います。産科の待合やパンフレットの用意があれば目を通す人がいると思います。</p>
<p>子供の体調が悪くなった時に、母乳バンクがあることを教えていただき、母乳を提供していただけたことにとても感謝しています。必要とする赤ちゃんに広く提供できるように、もっと広まっていけばいいと思っています。</p>
<p>出産するまでドナーミルクというものを知りませんでした。初めて聞いた時には、少し複雑な思いもありましたが、先生にご説明頂いて納得することが出来ました。色々な助けがあり、今無事に元気に育っているので大変感謝しています。ありがとうございました。</p>
<p>娘を助けていただいた医療機関で母乳の大切さを教えてもらいました。ドナーミルクの利用に関して、先進的なNICUに入院でき、本当に幸運でした。しかしながら入院している医療機関によってはまだまだ理解がされておらず普及率もそれほど高くないいんしょうを受けます。低出生体重児にとって本当に肝要である生後数週間の栄養が十分に摂取できない(しかもそのことがあまり一般的に知られていない)ことは残念であり、今後全国的にどの病院でもドナーミルクを利用できるようにするには、国の介入による一律の動きが必要でないかと考えます。娘のようにドナーミルクで助かる命が今後増えることを心より祈っています。また、ドナーミルクの提供者の方、母乳バンクに携わる方々に本当に感謝しています。出産後2-3日は母乳が思うように出ず、不安な気持ちもありましたが、ドナーミルクに助けられていると思うと、不安が軽減されました。本当にありがとうございました。</p>
<p>母乳バンクやドナーミルクについてはごく一部の人しか知らないが、妊娠している人はもちろん、その家族、妊娠を希望する人たちにも知ってもらえる機会が増えるといいなと思いました。</p>
<p>母乳バンク、ドナーミルクをもっと知ってもらい、妊娠中に自分はどのような選択をしたいかを考えられるようにしてもらいたいと思います。産んで初めて知ったので、考える余裕がなかったことがあり、また、夫も消極的だったので、夫婦で考えられる機会があればいいなと思いました。</p>
<p>提供者がわからない不安は今後も変わらないと思うが、必要となる事態が起きてから知ると、それについて情報を得たり、自分で納得できる時間も短くなると思うので、よりいろいろな場面で早くから知ることが出来る機会があればいいと思う。</p>
<p>関西エリアにも母乳バンクを作ってほしい</p>
<p>もっと広く母乳バンク、ドナーミルクの正しい内容が伝えられる状況を作って欲しい。</p>

少しの間だったが、早産で粉ミルクより母乳の方が負担が少ないことをわかっていたので、ドナーミルクは必要だったと思う。早産児へのドナーミルク(母乳バンク)は赤ちゃんにとっても母親にとってもとても助かるものだから、日本に母乳バンクは必要だと思う。